

令和2度老人保健健康増進等事業

地域医療構想と地域包括ケアの連動した「人口減少対応型まちづくり」  
の促進に向けた実証的検証事業

一般社団法人北海道総合研究調査会

1 目的

2025年にはいわゆる「団塊の世代」が後期高齢者となり、医療や介護の需要がピークを迎える。その後、子どもや生産年齢人口の減少のみならず、高齢者の減少が始まる。人口の減少や人口構造の変化により医療ニーズが変化する中、今後、自治体においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関の相互連携、及び医療と介護の連携強化を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービス提供体制の構築が求められている。その際、圏域単位の「効率的な医療提供体制の構築（地域医療構想／病院のダウンサイズ等）」の議論と、市町村単位の「地域包括ケアシステムの構築」の議論を連動させつつ、住民の理解・協力が得ながら具体的なまちづくりの検討・取組（バージョンアップ）を進めることが重要となる。

そこで本調査研究では、平成30年度、令和元年度の調査結果を踏まえ、医療提供体制に課題を抱えるモデル自治体での実践を通じ、検討・取組を進める際の課題や対応の在り方等を整理し、プロセスの見える化を図るとともに、横展開の手法を検討した。

2 調査概要

- (1) 人材確保策に関する調査
- (2) 先進地視察研修
- (3) モデル地域におけるプロセス試行
- (4) プロセスモデルの横展開手法の検討
- (5) 研究会の設置・検討

3 本調査研究の結果と考察

人材確保策に関する調査では、関係機関へのヒアリング調査のほか、事例調査、道内の自治体立病院・有床診療所アンケート調査、先進地視察研修を実施した。人材不足が進む中、人材の確保に関しては広域連携も視野に入れた新たな人材確保の仕組みのほか、地域内での人材の育成・活用も検討が必要であることが分かった。

中頓別町国民健康保険病院のダウンサイジングとバージョンアップのプロセス試行においては、地域医療提供体制と地域包括ケア構築に関する基本方針について作業部会を通じて議論をした。新たな医療・介護連携の仕組みを構築するための進め方と方針案を整理し、今後に向けて取り組むことを整理した。

奈井江町国民健康保険病院については、町により設置された「あり方検討委員会」において、今後の担うべき診療体制や経営の安定化、公的支援の水準等について検討を行った。委員会では、現在の機能や地域包括ケアシステムにおける役割を維持したうえで短期的な経営改善に取り組み、中長期的な医療機能の検討は今後の課題とされた。

本調査研究で試行したプロセスモデルを横展開するため、自治体立病院等のダウンサイジングとまちづくりと連動したバージョンアップの取組手法についての手引きを作成したほか、自治体立病院向けの説明会を開催し、道内の自治体に広く横展開した。

自治体立病院等のダウンサイジングとまちづくりと連動したバージョンアップの推進においては、医療機関のほか行政関係者、地域の医療・介護関係者等による「①意思決定プロセスと体制の整備」、医療・介護・福祉の「②地域連携体制の再構築」、議論を進めるための「③多面的な議論の場とデータ分析の活用」が重要であることが分かった。